

## 再 評 価 調 書 (案)

I 事業概要											
事業名	林道事業（過疎山村地域代行林道事業）										
地区名	かしょうぜかしわぼらせん 河上瀬 柏 洞 線										
事業箇所	おおのせちよう 豊田市大野瀬町 地内										
事業の あらまし	<p>河上瀬柏洞線は、豊田市の北東部矢作川上流域に位置し、起点は「国道 153 号」と接続し、終点は「主要地方道瑞浪大野瀬線」と接続する計画延長 9,800m、利用区域面積 347ha を有する幹線的な林道である。</p> <p>三河地域のなかで豊富な森林資源を有する当地区において、これらの有効な活用と森林の適切な管理・保全のための林内路網が必要とされてきた。</p> <p>本事業は、経済的かつ効率的な森林整備を可能にすることにより、水源かん養などの森林の持つ公益的機能や林業生産性の向上を図るための、林内路網の幹線となる林道を開設するものである。</p>										
事業目標	<p><b>【達成（主要）目標】</b> 森林整備の効率化 林道を開設することにより、間伐等の森林整備を 1 年当たり利用区域面積（347ha）の 2%実施する。</p> <p><b>【副次目標】</b> —</p>										
計画変更 の推移		事業 採択時 (1993)	再評価時 (1 回目) (1998)	再評価時 (2 回目) (2003)	再評価時 (3 回目) (2008)	再評価時 (4 回目) (2013)	再評価時 (5 回目) (2017)	再評価時 (6 回目) (2022)	変動要因の分析		
	事業期間	1993 ～ 2007			1993 ～ 2015	1993 ～ 2017	1993 ～ 2026	1993 ～ 2026	変更なし		
	事業費 (億円)	11.7			15.7	15.3	18.4	18.4	変更なし		
	経費内 訳	工事費	11.7			15.7	15.3	18.4	18.4		
		用補費	—	—	—	—	—	—	—		
		その他	—	—	—	—	—	—	—		
事業内容	林道開設 延長 9,300m 幅員 4.0m				林道開設 延長 9,800m 幅員 4.0m				変更なし		



③ 事業の効果の変化	3) 今後の事業進捗の見込み	<p><b>【阻害要因】</b> 阻害要因となった脆弱な地質、施工が困難な岩盤・急峻な地形の区間の開設は今年度には完了する見込み。今後は計画どおりの事業実施が見込まれる。</p> <p><b>【今後の見込み】</b> 前回評価時の計画に沿って 2026 年度に完了予定。</p>																																																															
	判定	B	<p>A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。</p> <p>B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> <li>○これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> <li>・これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> </ul> <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>																																																														
	<p><b>【理由】</b> 地形等による阻害要因はほぼなくなり、現在の計画どおり 2026 年度の完成が見込まれる。</p>																																																																
1) 貨幣価値化可能な効果（費用対効果分析結果）の変化	<p><b>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析の算定基礎となった要因変化の有無】</b> 前回評価時から大きな変化はない。</p> <p><b>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析結果】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #ADD8E6;"> <th colspan="2">区分</th> <th>再評価時 (4 回目) (基準年 2013)</th> <th>再評価時 (5 回目) (基準年 2017)</th> <th>再評価時 (6 回目) (基準年 2022)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用 (億円)</td> <td>事業費</td> <td>22.1</td> <td>30.7</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 (C)</td> <td>22.1</td> <td>30.7</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">効果 (億円)</td> <td>木材生産等便益</td> <td>2.4</td> <td>3.4</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>森林整備経費縮減等便益</td> <td>23.3</td> <td>29.7</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0.8</td> <td>0.6</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 (B)</td> <td>26.5</td> <td>33.7</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>(参考) 算定 要因</td> <td>森林整備計画面積 (ha)</td> <td>302.9</td> <td>279.7</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td></td> <td>木材価格 (円/m<sup>3</sup>)</td> <td>17,400</td> <td>15,600</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析結果 (B/C)</td> <td>1.2</td> <td>1.1</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額は、社会的割引率(4%)及びデフレーターを用いて現在の価値に換算したもの。</p> <p>※費用対効果分析については、愛知県公共事業評価実施要領細則により、原則として、事前評価時（前回評価時）と比べ、その要因が 3 割を超えて変化している場合、または費用対効果分析結果が 1 未満になる恐れがある場合に実施するとされており、今回の評価では算定していない。</p> <p><b>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析手法】</b> 「林野公共事業における事業評価マニュアル（令和 4 年 4 月）」に基づき算出している。 注）事業費＝「林道開設にかかる事業費」＋「開設された林道を利用した森林整備の費用」</p> <p><b>【変動要因の分析】</b> 費用対効果の算定基礎となった要因に大きな変動はない。</p>				区分		再評価時 (4 回目) (基準年 2013)	再評価時 (5 回目) (基準年 2017)	再評価時 (6 回目) (基準年 2022)	備考	費用 (億円)	事業費	22.1	30.7	—		維持管理費	—	—	—		合計 (C)	22.1	30.7	—	変更なし	効果 (億円)	木材生産等便益	2.4	3.4	—		森林整備経費縮減等便益	23.3	29.7	—		その他	0.8	0.6	—		合計 (B)	26.5	33.7	—	変更なし	(参考) 算定 要因	森林整備計画面積 (ha)	302.9	279.7	—	変更なし		木材価格 (円/m <sup>3</sup> )	17,400	15,600	—	変更なし	費用対効果分析結果 (B/C)		1.2	1.1	—	変更なし
区分		再評価時 (4 回目) (基準年 2013)	再評価時 (5 回目) (基準年 2017)	再評価時 (6 回目) (基準年 2022)	備考																																																												
費用 (億円)	事業費	22.1	30.7	—																																																													
	維持管理費	—	—	—																																																													
	合計 (C)	22.1	30.7	—	変更なし																																																												
効果 (億円)	木材生産等便益	2.4	3.4	—																																																													
	森林整備経費縮減等便益	23.3	29.7	—																																																													
	その他	0.8	0.6	—																																																													
	合計 (B)	26.5	33.7	—	変更なし																																																												
	(参考) 算定 要因	森林整備計画面積 (ha)	302.9	279.7	—	変更なし																																																											
	木材価格 (円/m <sup>3</sup> )	17,400	15,600	—	変更なし																																																												
費用対効果分析結果 (B/C)		1.2	1.1	—	変更なし																																																												

	2) 貨幣価値化 困難な効果 の変化	<b>【事前評価時の状況】</b> 該当なし <b>【再評価時の状況】</b> 該当なし <b>【変動要因の分析】</b> 該当なし			
	判定	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">A</td> <td>           A：事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。            B：事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。            C：事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。         </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <b>【理由】</b>            開設済みの区間においては間伐等の森林整備が着実に実施されているため、事業着手時と同様の事業効果が発現されると見込まれる。         </td> </tr> </table>	A	A：事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。 B：事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。 C：事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。	<b>【理由】</b> 開設済みの区間においては間伐等の森林整備が着実に実施されているため、事業着手時と同様の事業効果が発現されると見込まれる。
A	A：事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。 B：事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。 C：事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。				
<b>【理由】</b> 開設済みの区間においては間伐等の森林整備が着実に実施されているため、事業着手時と同様の事業効果が発現されると見込まれる。					
III 対応方針（案）					
継 続	中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。				
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容					
■対象（事業完了後5年目）    □対象外 <b>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</b> — <b>【主な評価内容】</b> 間伐等の森林整備の状況から事業効果を確認する。					
V 事業評価監視委員会の意見					
VI 対応方針					